

第六編 教

育 (公民館)

天
出
全
計
大
會

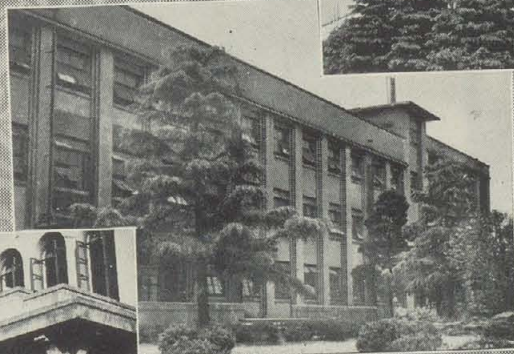
(在)

類
元子合計
錢
13,196.72
13,408.92
14,060.80
15,022.30
305,718.00
94,076.00
416,000.00
325,000.00
860,359.00
056,861.74

卷六

終

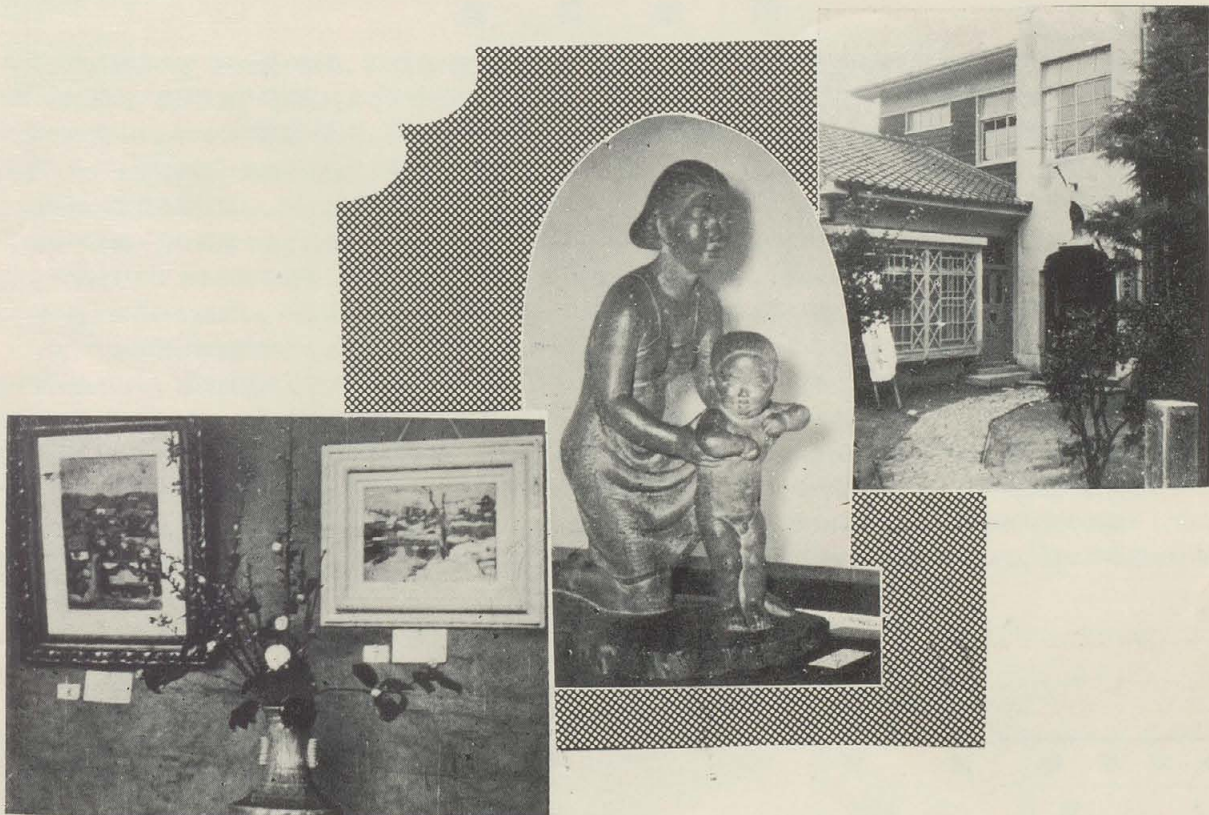
官



府立山本高等学校（右上） 府立入尾高等
学校（中央） 市立入尾小学校（左下）



THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY



市立公民館玄関（右上） 水島弘一氏彫刻展ク沐浴ク（中央）と 絵画展の一部（左下）

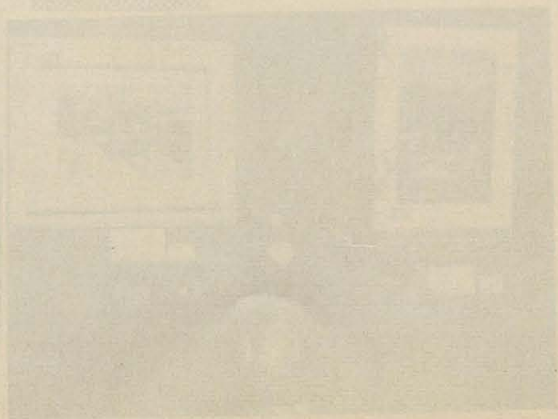


Figure 1. (a) A person sitting on a bench in a room with bookshelves. (b) A person sitting at a desk with a framed picture on the wall.

施 設 概 況

米國教育使節団の第一次來訪の結果、わが國に於ては明治初年以來の教育制度に大改革が実施されることになり、昭和22年度には新学制実施に伴い、義務教育3年延長による新制中学校の発足を見たのであるが、當時は未だ学校施設は全然整備されていなかった。当八尾市に於ては、町村合併直前であり、旧八尾町が現在の用和小学校に隣接した用地を八尾町立新制中学校敷地に当て12教室の校舎を新築した外は校舎新築の敷地を決定したまでにとどまり、校舎建設に至らず、旧龍華町は龍華小学校々舎の一部を、旧久宝寺村は久宝寺小学校の講堂を間仕切し、旧大正村は大正小学校の一部を使用し切れず、同年9月に至り、八尾中学校と西郡中学校は合同し、府立山本高等学校々舎を借用することになり、久宝寺中学校は先の旧八尾町に於て建築された校舎と久宝寺小学校に分散し、龍華中学校大正中学校はそのまま小学校を使用した。この間不幸にして久宝寺中学校使用中の7教室を焼失したことは遺憾の極みであるが、24年度に於て直ちにこれを復旧し、久宝寺中学校12教室を新築し引続き25年度に於て八尾中学校4教室の新築を実施した。

その間、大正中学校は旧陸軍兵舎の買収改造により、小学校より分離独立することになった。又一方25年度には府立山本高等学校々舎返還問題があり、市は旧双葉女学校々舎の買収を決定し、画期的な学制改革により発足した新制中学校も一應独立し得ることとなったのである。然しながら、年々生徒の自然増加により、小学校に於ては23年度西部小学校の8教室の大改造を実施し、24年度に於ては竹淵小学校として18教室の新築、安中小学校8教室、山本小学校4教室を増築し、更に25年度竹淵小学校6教室増築を完成し、続いて26年9月には久宝寺小学校12教室が落成して一応八尾市の教育から二部授業が解消した訳である。併しながら市運の隆昌に伴つて校舎の不足並びにその整備は当然継続的に課せられた問題として努力せねばならぬ教育事業の一面である。なお26年度の事業として仮称第二中学校（大正、龍華中学校合併）の建設、山本小学校4教室の増築、及び同校講堂の建築が予定されており、更に27年度には中学校一枚新設が計画されている。

学 校 所 在 地

高 等 学 校 (府立)

全日制

2校

定時制

1校

校 名	校 長 名	所 在 地	電 話	最 寄 駅 名
八尾山本 八尾(定時制)	山下 信太郎 山森 仁 山下 信太郎	安中 三〇二 山本 六〇五 安中 三〇二	八尾 29 八尾 270 八尾 29	近鉄 八尾 近鉄 八尾 近鉄 八尾

中 学 校 (市立)

4 校

校 名	校 長 名	所 在 地	電 話	最 寄 駅 名
八久龍大 宝 尾寺垂正	黒鶴芝岡 丸野田 鶴之	謙作陶助	一三〇〇 二〇五〇 二四八 二六四の四	八尾尾 八尾尾 八尾尾
			9 3 3 4 2 2 9 3 4	近鉄 近鉄 近鉄
				尾口尾 宝寺 八尾 大正住宅

小 学 校 (市立)

9 校

校 名	校 長 名	所 在 地	電 話	最 寄 駅 名
八山用久龍大西安竹 宝 尾本和寺垂正郡中淵	辻高藤本稻磯池山藤 岡田井莊垣上 恒彦 惠 楠正鈴	夫郎郎俊隆雄彦	三九二 六〇五 三二七の一 四二一 一三七六 一四三五 一一五	八尾尾 八山久太 八尾尾 八尾尾 八尾尾 八尾尾 八尾尾
			4 7 2 2 7 3 4 7 1 6 5 2 5 7 0 7 1 3 5 6 8 9 1 3	近鉄 近鉄 近鉄 近鉄 近鉄 近鉄 近鉄
				尾本尾口尾田郡尾橋 八山久太西八尾井

幼 稚 園 (市立)

6 園

(△印は兼務を示す)

園 名	園 長 名	所 在 地	電 話	最 寄 驛 名
八山用久龍大 宝 尾本和寺垂正	向高藤本松磯 △△△ 井田井莊下上 ツ恒彦 ル二二三 エ郎郎枝隆	尾本郷寺堂田	三九二 二二五 三二七の一 二四二 一三七	八尾尾 八山久太 八尾尾 八尾尾 八尾尾 八尾尾
			4 7 2 2 7 3 4 7 1 6 5 2 5 7 0 7 1 3	近鉄 近鉄 近鉄 近鉄 近鉄 近鉄
				尾本尾口尾田 八山久太

教職員及生徒数

高等学校		教職員数														(△印は兼務を示す)				
校名	校長	教員数						教員以外の職員及び用人数								計				
		男	女	男	女	男	女	事務職員	学校医	学校歯科医	養護職員	助手	雇用人	男	女	計				
八尾	1	34	9	1			1	1		1				1	1	1	4	45	16	61
山本	1	24	10	2	1		3	4	3	1				1		4	1	38	17	55
八尾(定時制)	△1	7		△8			△1		△1					△1	1	1		△11	△1	△12
計	2	65	19	3	1		8	5	4	2				2	2	1	6	92	33	125
	△1			△8			△1		△1					△1				△11	△1	△12

校名		学級名	一年		二年		三年		四年		計		
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
八尾	尾本	24	229	179	220	152	217	139			661	470	1,131
山	尾本	20	190	16	194	141	147	130			531	432	963
八尾(定時制)		7	93	16	71	4	31	3	9		204	23	227
計		51	512	356	485	297	390	272	9		1,396	925	2,321

中学校		教職員数														(△は兼務者を示す)				
校名	校長	教員数						教員以外の職員及び雇用人数								計				
		男	女	男	女	男	女	事務職員	学校医	学校歯科医	養護職員	雇用人	男	女	計					
八久龍大	1	33	12			2		1		1		1				1	3	40	15	55
宝	1	12	4			1	1					1				2		18	5	23
尾寺華正	1	18	7			2			1	1		1				1		24	8	32
大	1	7	2							1		1				1		11	2	13
計	4	70	25			5	1	1	1	4		4				5	3	93	30	123

尾口尾宅

尾本尾口尾田郡尾橋

尾本尾口尾田

生 徒 数

校 名	学級数	一 年		二 年		三 年		計		計
		男	女	男	女	男	女	男	女	
八久龍大 宝 尾寺華正 計	28	325	254	285	263	296	244	906	761	1,667
	12	99	112	115	124	91	74	305	310	615
	18	192	210	175	149	156	117	523	476	999
	6	51	67	43	39	43	27	137	133	270
	64	667	643	618	575	586	462	1,871	1,680	3,551

小 学 校

教 職 員 数

学 校 名	教 員 数						教員以外の職員及び用人数								計				
	校 長		教 諭		助 教 諭		講 師		学 校 医		学 校 歯 科 医		養 護 職 員		用 人		男	女	計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
八山用久龍大西安竹 宝 尾本和寺華正郡中淵 計	1		17	27	2	2			1		1			1	2	9	24	39	63
	1		15	9	1	2			1		1			1	1	3	20	15	35
	1		9	9					1		1			1	1	1	13	10	23
	1		15	14		5			1		1			1	1	2	19	22	41
	1		14	18	2	1			1		1			1	1	2	20	22	42
	1		6	9	1	5				1	1					3	9	18	27
	1		6	4	1	1			1		1					3	10	8	18
	1		6	10					1		1			1	2	1	11	11	22
	1		8	9	2	4	1		1		1			1	1	1	15	14	29
	9		96	109	9	20	1		8	1	9			5	9	24	141	159	300

見 童 数

学 校 名	学 級 数	一 年 生		二 年 生		三 年 生		四 年 生		五 年 生		六 年 生		計			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	
八山用久龍大西安竹	尾本和寺華正郡中淵	36	132	131	175	175	157	165	186	184	127	158	144	125	921	938	1,859
		23	97	81	121	115	105	97	126	105	92	102	81	76	622	576	1,198
		14	56	56	58	64	74	53	77	54	58	68	50	57	373	352	725
		29	99	95	126	114	127	121	123	128	125	103	127	101	727	662	1,389
		27	111	110	111	111	103	104	116	122	104	90	94	109	644	646	1,290
		18	61	72	60	83	59	88	69	76	52	69	56	72	357	465	822
		11	28	27	39	31	33	36	41	33	26	31	29	22	196	180	376
		14	48	49	70	66	54	52	68	74	44	72	49	54	333	367	700
		21	74	73	101	83	92	81	114	101	86	69	61	64	528	471	999
		計	193	706	694	861	847	809	797	920	877	714	762	691	680	4,701	4,657

幼 稚 園

教 職 員 数

(△印は兼務者を示す)

幼 稚 園 名	教 員 数										教 員 以 外 の 職 員 数 及 び 用 人 数						計			
	園 長		教 諭		助 教 諭		事 務 職 員		園 医		園 歯 科 医		養 護 職 員		用 人		男	女	計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
八山用久龍大	尾本和寺華正																			
		△ 1			2		2			1							1	2	6	8
		△ 1			1		2			1							1	3	4	7
		△ 1					2		1	1								3	3	6
		△ 1			1		2			1							1	3	4	7
		△ 1	△ 1		2		1			1							1	2	5	7
		△ 1			1		1			1							1	2	4	6
計	△ 4	△ 1	7		10		1	5	1		6				5	15	26	41		

計
1,667
615
999
270
3,551

計
63
35
23
41
42
27
18
22
29
300

園 児 数

園 名		学 級 数	男	女	計
八山用久龍大	尾本和寺華正 宝	4	80	98	178
		3	52	55	107
		2	31	30	61
		3	53	52	105
		3	45	55	100
		2	32	39	71
	計	17	293	329	622

就学奨励 教育補助金 交付者一覽表

(昭和26年12月現在)

種 別 校 名	A (給食補助のみ)						B (教育補助のみ)						C (給食一部及教育補助)						A	B	C	計	在籍数	要補助 者の対 在籍歩 合																		
	学 年						学 年						学 年																													
	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6																								
八山用久龍大 尾本和寺華正 宝																																										
小 計	4	10	7	7	9	10				1	2	2	3	44	76	64	101	56	59	47	8	400	455	9,351	4.9																	
八山用久龍大 尾本和寺華正 宝							10	1	9											20			20	1,663	1.2																	
							4	19	7											30			30	616	4.8																	
							14	9	8											31			31	998	3.0																	
							2	2	1											5			5	270	1.8																	
小 計							30	31	25											86			86	3,547	2.4																	
小 合 計																								541	4.2																	
中 計																								541	4.2																	
小 合 計																								541	4.2																	

教 育 補 助 額

校種別	学 年	年 額	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平 均 (1 ヶ 月)
			月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
小 学 校	1	1,520	400	100	100	100	50	200	100	100	100	100	100	70	126 $\frac{2}{3}$
	2	1,405	300	100	100	100	50	200	100	100	100	100	80	75	117 $\frac{1}{2}$
	3	1,710	450	150	100	100	50	300	100	100	100	100	80	80	142 $\frac{1}{2}$
	4	1,915	450	150	150	100	100	300	100	100	100	150	115	100	159 $\frac{1}{2}$
	5	2,100	500	150	150	100	100	300	150	100	100	200	150	100	175
	6	2,265	550	200	150	100	100	350	150	115	100	200	150	100	188 $\frac{3}{4}$
中 学 校	1	3,905	1,205	300	200	200	100	400	300	200	200	400	200	200	325 $\frac{5}{12}$
	2	2,995	1,000	200	150	150	100	300	200	150	150	300	150	145	249 $\frac{1}{12}$
	3	2,835	900	200	150	150	90	300	200	150	150	300	150	145	240 $\frac{5}{12}$

現在)

要補助
者の対
在籍歩
合

358	3.7
199	3.6
711	4.4
339	4.3
294	3.1
322	4.3
376	7.9
599	6.4
003	10.2
351	4.9
663	1.2
516	4.8
998	3.0
270	1.8
547	2.4
398	4.2

就学奨励補助に関する調査 (1)

(昭和26年12月現在)

1.	校名	小学校集計					調査責任者	教育課				
2.	被補助者数	A (給食補助) 47名			B (教育補助) 8名		C (給食教育補助) 401名			計		456名
3.	被補助者の補助を必要とする主な理由別人数	理由	か収入が少い	が子供(兄弟)が多いから	ら父がないか	ら母がないか	から両親がない	ら意の家庭が教育に熱心でないか	つ戦災等にあ	中父病氣失業	困引揚の爲貧	計
		人数	184名	65	133	12	18	17	14	12	1	456名
4.	補助を受けるようになって良くなつたと思われる者の種目別人数	種目	なす学長欠つる者でよう登校に	たよるにが来つる	出た席者でな	つたよるに	等特別な行事	た明されな度つ	家計が緩和	好出席状況良		計
		人数	31	58	172	102	1					364名
5.	補助を廃止した者	理由	なける生活適用を護法	ため親再婚の	転校	死亡	向生活が漸次	退保護者の辞				計
		人数	11	1	6	2	1	5				26名

現在)

456名	6.	被補助者の増減	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計												
			A 増減			1		2				19		19											
			B 増減										1		4										
			C 増減			4	10	1	7	6	8	2			38										
		月別被補助者数		442	439	439	445	440	445	446	454	456	◎ 479												
456名	計	昭和27年度被補助希望数	学年重別	1			2			3			4			5			6			計			合計
			A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C	A B C										
			既被補助者			17	4	27	10	76	7	64	7	2	101	9	2	57	37	4	342				383
			追加希望者	4	1	66	4	44	1	38	5	47	1	1	46	4	1	32	19	3	273				295
		計	4	1	83	8	71	11	114	12	111	8	3	147	13	3	89	56	7	615			678		
計	8.	実教育費と補助費との比較 4月より12月までの計で1人分の平均額 (単位円)	学 年	1	2	3	4	5	6	合計	平均	補助費の対実教育歩合													
			実教育費	4,633	3,920	4,314	4,597	5,044	5,603	28,116	4,689														
			補助額	1,970	1,860	2,181	2,174	2,469	2,423	13,677	2,180	46.5%													
364名	計	9.	学校長所感	1.長欠、不就学が目立つて少なくなった 2校 2.出席状況、学習状況が良くなり児童が明るくなった 6校 3.市財政の許す限り1人当り補助額を増額されたい 5校 4.補助を受ける人員を増してもらいたい 5校 5.旅行等の行事に参加しない子供がないことは此上なく嬉しい 2校 6.被補助者の家庭状況について校区差のある点は考慮に入れてもらいたい 1校 7.月始めに支給されるようになったので事務的に円滑になり、有難さが実質的に上った 5校 8.生活保護法による教育扶助の分も就学奨励補助のように学校へもらいたい 3校 9.学校、学級経営がし易くなった 1校																					
				26名	10.	就学補助に関する責任者所感																			
備考	イ、2.は昭和26年12月の現在数を記入 ロ、6.の◎は26年4月1日以来1ヶ月でも補助を受けた者の延数で記入従つて廃止した者は実支給の数で記入。追加希望者— 来年度の希望数(1年生は概数記入) ハ、7.の既被補助者—本年度被補助者であつて来年度も引き続き必要とするもの(1年生は中学校のみ記入) ニ、8.の実教育費は補助を受けていない者が学校に通う爲に要する教育費のことである。																								

就学奨励補助に関する調査 (2)

(昭和26年12月現在)

1.	校名	中 学 校 集 計					調 査 責 任 者	教 育 課					
2.	被補助者数	A (給食補助) 0名			B (教育補助) 86名		C (給食教育補助) 0名			計 86名			
3.	被補助者の補助を必要とする主な理由別人数	理 由	か収入が少い	が子供(兄弟)が多いから	ら父がないか	ら母がないか	が家庭が意気がないから	つ戦災等にあ	か両親がない	父病氣中	定く父無収入多	計	
		人数	13	14	41	2			10	5	1	86名	
4.	補助を受けるようになって良くなつたと思われ者の種目別人数	種 目	なす者た	学欠・登校	長もに不	たよのな	い者が来	出席でな	つたりに	等参加す	特別に	其の他	計
		人数	4		28	43	2						77名
5.	補助を廃止した者	理 由	死	転校	学の家ため無理解							計	
		人数	1	2	1							4名	

		月 別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計															
	6. 被補助者の増減	A 増減																									
		B 増減			1			6	1			8															
		C 増減						2		1	1		4														
86名	月別被補助者数		82	82	83	83	81	87	87	86	86	◎ 90															
計	7. 昭和27年度被補助希望数	学年種別	1			2			3			4			5			6			計			合計			
			A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C				
		既被補助者		66				30			31														127		127
		追加希望		46			16			13															75		75
	計		112			46			44														202		202		
86名	8. 実教育費と補助費との比較 4月より12月までの計で1人分平均額 (単位円)	学 年	1			2			3			4			5			6			合計	平均	補助費の対実教育歩合				
		実教育費	7,051			6,425			7,245												20,721	6,907					
		補助額	3,105			2,400			2,290												7,795	2,598		37.6%			
77名	9. 学校長所感	1. 父兄が此の制度により市に対する信頼感を増した 2. 教員がこれ等の生徒の指導に一層責任を感じるようになった 3. 感謝状さえもらっている 4. 人員を増加してもらいたい 2 校 5. 長欠席者を出席せしめる程度の増額をしてもらいたい 6. 永欠者の出席せしめるまでは行かないが長欠に脱落することを防ぐことが出来て結構だ 2 校 7. 貧困者が行事に参加出来るようになって明るくなった 2 校 8. 使途範囲を拡大してもらいたい 9. 月始めに補助されるようになって大変結構だ 10. 実教育費に近い額に増額されたい																									
計	10. 就学補助に関する責任者所感																										
4名	備 考	イ、2. は昭和26年12月の現在数を記入 ロ、6. の◎は26年4月1日以来1ヶ月でも補助をうけた者の延数で記入従つて廃止した者は実支給の数で記入。追加希望者— 来年度の希望数(1年生は概数記入) ハ、7. の既被補助者—本年受被補助者であつて来年度も引き続き必要とするもの(1年生は中学校のみ記入) ニ、8. の実教育費は補助を受けていない者が学校に通うために要する教育費のことである。																									

市立公民館

概 説

公民館は平和日本の理想を象徴し文化日本の美しさを表わす、日本近代化、民主化の標柱である。いつも希望と進歩とを求めてどまることなく伸び育つてゆく不断の発展性を秘めている。

わが八尾市に於ても、昭和二十五年五月一日この施設をみるにいたつたことは、誠に喜ばしいことで市民の皆さんは此後進んで楽しく利用して、相互に教養の向上、健康の増進情操の純化、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄與して戴きたい。

◇公民館のつどいから◇

とけあう心なごやかに 自由の朝をたたえよう

希望を胸に美しい 文化の泉くみとろう

まどいになごむひとときに 明日えの力をだてよう

1. 本 館

名 称	所在地	職 員	創 立 年 月 日	建 物				敷 地	
				本 館	延 坪	図書閲覧室	坪 数		総延数
八尾市立公民館 電 八 尾 2 6 4	八 尾 市 八 尾 四九の一	館 長 1 主 事 1 事 務 員 1 使 丁 1 計 4	昭和25年 5 月 1 日	木造2階建 スレート 1 棟	64	木造瓦葺 1 棟	12坪	76	110坪

2. 分 館 (9ヶ所、各小学校内に設置、各分館に分館長を置く)

大正分館、竹淵分館、龍華分館、安中分館、久宝寺分館、八尾分館、用和分館、西郡分館、山本分館

3. C I E 図 書 館 分 館 設 置 (昭和26年10月12日)

4. 蔵 書

総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	工 学	産 業	芸 術	語 学	文 学	C I E 図 書			総 計
										洋 書	翻 訳	雑 誌	
184	9	56	87	38	12	13	57	13	293	72	196	80	1,110

5. 図書閲覧人員

閲覧人員	内訳		閲覧図書	内訳						
	館内閲覧	館外閲覧		文学	社会科学	自然科学	産業	芸術	総記	歴史
3,127	1,261	1,866	3,454	43%	12%	7%	6%	10%	12%	8%

6. ナトコ映写機貸與常備

7. 昭和26年中における主なる事業

(A) 講座

成人学級並其の他講座	期 間	回 数	参加延人員
成人学級初等英語会話講座	1月～3月	24	1,034
成人学級書道講座	6月～12月	27	1,205
成人学級簿記講座	6月～9月	14	583
成人学級電気ラジオ講座	10月～12月	13	331
臨写版技術講座	6月～7月	5	102

(B) 其の他

- (イ) 八尾市民展(俳句洋画写真)
- (ロ) 講演会
- (ハ) 米作増収体験を語る会
- (ニ) 八尾市民のハイキングコース設定(エイトコース)
- (ホ) 名曲レコード鑑賞会
- (ヘ) 青年団指導者講習会(吉野竹林院一泊二日)

(ト) 婦人団体指導者講習会

(チ) 青年団体協議会

(リ) 写真同好会 俳句会

(ヌ) 児童画作品展

(ル) 八尾市芸能祭

(ヲ) 洋画展・彫刻展

(ワ) 巡回移動図書室実施九ヶ所

(カ) 昭和26年度使用の小中学校教科書展示用分を市内各小中学校に分配し各部門的に研究を進め来年度の参考に資する。

(コ) 公民館における諸会合と利用人員

A 諸会合	394回	(月平均 33回)
B 利用人員	20,616人	(平均1,718人)
		(1日平均約57人)

資 産 表

員 人 数 別 資 産 表

資 産 名	1951 年 末						1952 年 末		
	100	200	300	400	500	600	700	800	900
現金	100	200	300	400	500	600	700	800	900
債権	100	200	300	400	500	600	700	800	900
固定資産	100	200	300	400	500	600	700	800	900
負債	100	200	300	400	500	600	700	800	900
純資産	100	200	300	400	500	600	700	800	900

調査員 〇〇〇〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

調査員 〇〇〇〇

- 現金 (A)
- 債権 (B)
- 固定資産 (C)
- 負債 (D)
- 純資産 (E)

員 人 数 別	資 産 名	単 位	数 額	備 考
100	現金	円	100	
200	債権	円	200	
300	固定資産	円	300	
400	負債	円	400	
500	純資産	円	500	

調査員 〇〇〇〇

調査員 〇〇〇〇

調査員 〇〇〇〇

調査員 〇〇〇〇

調査員 〇〇〇〇

調査員 〇〇〇〇

調査員 〇〇〇〇

調査員 〇〇〇〇

第七編 社会福祉